



一球入魂！ ボクたちの 野球奮闘記

中国ろうきん杯
学童軟式野球
選手権大会
決勝大会



2012年11月10日(土)・11日(日)、中国5県の各地区県予選を勝ち抜いてきた8チームが集い、第9回中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会の決勝大会を開催しました。初日の準々決勝はマツダZoom-Zoomスタジアム広島(以下マツダスタジアム)他で熱戦が繰り広げられましたが、翌日の明け方から降り続く大雨に、準決勝・決勝は試合をすることができず、抽選により勝敗を決め、今年の決勝大会2日間の幕が閉じました。

決勝2日目



試合したい思いを胸に
抽選による勝敗決定へ

決勝大会2日目は雨天のため、朝8時の段階でマツダスタジアムでの試合は断念。会場をコカ・コーラウエスト野球場に移し、9時30分より監督会議。前日の熱戦を勝ち抜いた4チームに「なんとか試合を…」との思いで、雨が上がるのを待ちました。しかし、無情にも雨は降り続き、グラウンドはマウンドまで水に浸かる状況です。昼前になっても水はひかず、正午から再度監督会議、そして軟式野球連盟と〈中国ろうきん〉が協議した結果、勝敗は抽選で決めることとなりました。

各チーム9人ずつが○または×が入った封筒をひき、○の多いチームが勝ちとなる抽選方法。選手たちは、運を祈らずにはいられません。



優勝が決まった瞬間！ 会場内は歓声に包まれて

勝負は運も大切ということを実感させてくれた今大会。決勝抽選で益田七尾スポーツ少年団の優勝が伝えられると、チームメイトやビデオ・カメラを手にした応援団の熱気に包まれた会場が歓声に沸きました。



惜しくも準優勝となった車尾スポーツ少年団野球部。その結果に、こらえていた涙が溢れます。監督や周囲の人から「よくがんばった!」の声とともに拍手がおくられました。

決勝1日目

各県を代表するチームが戦う
目が離せない白熱プレー

暑い夏、地区予選を勝ち抜いてきた代表チームが優勝をめざし集結しました。中国5県の約700チームの激戦を勝ち抜いてきた8チームがマツダスタジアムでの開会式に臨みました。これからはじまる試合に、緊張と期待で胸が高鳴ります。



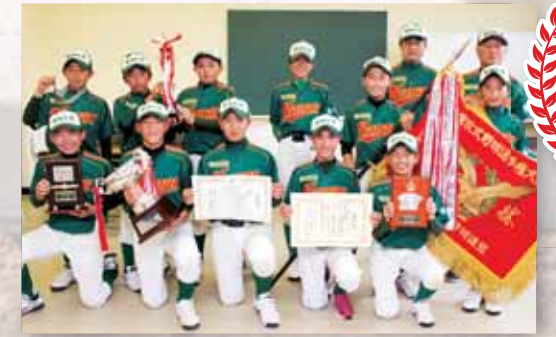
プロ野球選手が戦う球場と同じ場に立てる誇らしさや、緊張感を胸に選手たちが入場。開会宣言は、鈴が峰レッズの末本くん。



試合開始前、チーム同士のキャプテンが握手。ここから数々のドラマが生まれました。

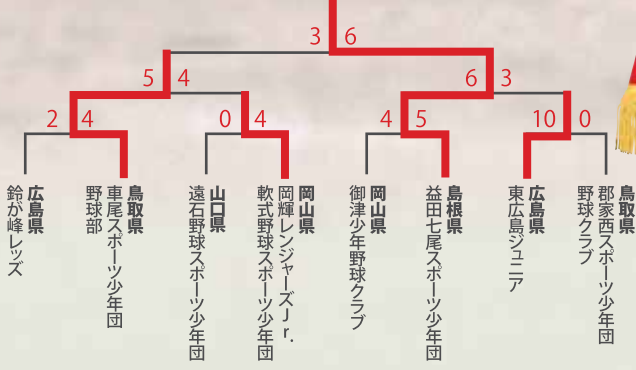


1試合目からレベルの高い戦いが繰り広げられ、実力伯仲の熱戦が続きました。



益田七尾スポーツ少年団

優勝した益田七尾スポーツ少年団。全国大会にも出場した経験とチーム力で優勝を狙い、準々決勝では終盤追いつかれるも最終回で逃げ切る大接戦でした。



益田七尾スポーツ少年団
キャプテン、6年徳屋光くん

中国ろうきん杯 学童軟式野球選手権大会とは

「毎日ひたむきにがんばる子どもたちの夢を応援したい」と願う〈中国ろうきん〉の社会貢献活動の一環として、2004年から開催。中国地区軟式野球連盟と〈中国ろうきん〉の共催により、2012年で第9回を迎えました。決勝大会初日、マツダスタジアムでの開会式には約700チームの中から勝ち抜いてきた8チームが集。選手宣誓の後、数々の熱闘シーンが展開されました。

【大会参加チーム数・選手数】

	2011年度		2012年度	
	チーム	選手	チーム	選手
鳥取県	88	1,760	92	1,840
島根県	124	2,036	132	2,640
岡山県	139	2,780	139	2,780
広島県	188	3,760	165	3,300
山口県	155	2,833	150	3,000
合計	694	13,169	678	13,560



一緒に戦った仲間としての絆を深め、来年もぜひ活躍してほしいです。

開会式あいさつ
〈中国ろうきん〉副理事長 大崎康弘